

杉田左江子さん

SUGITA SAEKO

香川大学農学部
先端生命科学コース
准教授・博士 (バイオサイエンス)



キャリアの原点は「お米への愛」 生命現象解明の楽しさを伝えたい



▶ 県産品の品種改良を支えて 地域農業の発展に貢献

私は、植物から役に立つ遺伝子を見つけて活用する研究をしています。目標は「美味しく、たくさん収穫できて、病気にも強く、育てやすい」植物の品種改良です。香川県の特産品である、キウイフルーツ、オリーブ、ニンニクや、私たちの主食であるお米に関する研究を行っています。これらの研究は大学や県、JA（農業協同組合）の協力のもと進めています。多くの方との研究交流や地域農業の振興や発展に貢献できることが研究の醍醐味です。

Profile

大阪府生まれ。大阪教育大学教育学部卒業後、奈良先端科学技術大学院で大学博士前期課程を修了。農林水産先端科学技術研究所で研究員としてもキャリアを築く。奈良先端科学技術大学院で博士号を取得し、農林水産省農業生物資源研究所特別研究員を経て、2009年から現職。

▶ ワークライフバランス

大学での仕事は多岐にわたるため、関係者と連携し、安心、安全、円滑に業務を遂行することに努めています。休日は、家族と過ごす時間を設け、心身ともに整えています。



▶ お米が大好きで選んだ研究者への道

私の進路選択は、「ご飯への愛」から始まりました。毎日の食事を大切に、「一粒の米も残さず美味しくいただく」ことをモットーとしています。そこで、大学院では、イネの分子育種学を研究し、農林水産省の「イネゲノム研究プロジェクト」に関わりました。また、研究を通じて人間関係や信頼の大切さを深く感じています。近年は、地域への恩返しの一つとして、日本の棚田百選にも選ばれた小豆島中山千枚田の保全活動に参加しています。また、国際貢献の一環として、日本と同じ米食文化のあるスリランカのルフナ大学との国際交流研究を開始しました。

▶ 教育者として、学生と共に成長

「生命現象の一端を実験によって解明することは楽しい」と実感してもらい、試行錯誤しながら将来を切り拓いていく「場」を提供したいと考えています。農学部では、「収穫祭」という学園祭があります。私の研究室では、学生さんと一緒に育てたお米を用いた食味試験を恒例行事としています。結果は、翌年に報告し、学会等でも発表しています。また、中学生にもサイエンスに興味を持ってもらえるように、身近な題材である「お米の品種改良」をテーマに、出前授業を行っています。これからも知的好奇心と向上心を持ち、前へ進む学生さんの成長をサポートしながら共に高め合っていきたいです。

中高生への Message

大学は、授業を受動的に受けるだけでなく、主体的に行う研究や社会貢献、地域連携、国際交流など、多くの学びの機会があります。オープンキャンパスや学園祭など、大学の雰囲気を感じる機会も多くありますので、ぜひ参加してみてください。何か新しいことに挑戦したいと思ったら、躊躇せずに一歩を踏み出してください。様々な経験があなたを成長させ、素晴らしい未来へと導くでしょう。

農学部
先端生命科学コース

微生物から高等植物や高等動物までの幅広い生物を対象として、生命科学の基礎から応用技術（生物資源・生物機能の有効利用や有用生物の育種・開発など）まで幅広く学ぶことができます。

